



血液型は？

血液型性格類型には根拠がないが、意外と浸透している。分析した記事を紹介しよう。

＊

血液型で性格がわかるという考え方は、実は日本や韓国などごく一部の国でしか通用しない。世界で初めてこれを提唱したのは、古川竹二という日本の教育学者だった。1927(昭和2)年、東京女子高等師範学校(現お茶の水女子大)教授の古川は「血液型による気質の研究」という論文を発表する。心理学の論文で、決して現在のような「占い」ではなかった。古川は教え子や友人にアンケートをとり、A型は引っ込み思案、B型は陽気、など気質が類型化できるとした。国内で血液型研究の第一人者だった古畑種基博士が当初は支持したこともあり、古川説は大きな反響を呼んだ。軍は血液型で兵の適性を判断することまで真剣に検討した。

だが古川の研究はサンプル数が300人ほどと十分ではないし、気質や性格を自己申告させる手法も厳密さを欠いた。他の研究者の追試では明らかな相関が確認できなかったこともあり、やがて古川説は学問的には忘れられた。

文教大学教授(宇宙物理学)の長島雅裕さん(46)は、教員志望の学生たちを指導するうちに、血液型性格診断が今も意外に浸透していることに気づいた。

長島さんは「血液型と性格に、日常生活ではっきりわかるほどの関係がないのは明らかです」と言い切る。古川の論文から90年、血液型と性格の関係を検証した研究はいくつもあるが、明らかな相関は見つかっていない。各血液型の特徴とされる性格を入れ替えて教え、そう知らせずに「自分に当てはまるか」と聞いた実験では8割以上の人が「そう思う」と答えた。つま

り思いこみでしかないということだ。

見過せないのは、血液型性格診断が、科学ではないのに科学のフリをする「ニセ科学(疑似科学)」の典型例だからだという。姓名判断や星占いに科学的根拠があると信じる人は少ないだろうが、血液型性格診断は「科学的」な雰囲気をもとっている。科学なら実験や観測によって誰にでも検証が可能だが、ニセ科学にはそうした厳密さは求められない。根拠をはっきり示さず、なんとなく信頼性が高いように見せかける。オカルト商法や詐欺商法の道具にされると、場合によっては適切な医療を妨げて人命にも関わる。

■菊池誠・大阪大学教授(物理学)の話

血液型性格診断が問題なのは、まず差別にあたるからです。本人の努力でどうすることもできない属性で区別するのは、差別ですよ。血液型で性格を決めつけることは「ブラッドタイプ・ハラズメント」と呼ばれ、入社試験の面接や配属先を決めるのに使われるという事例もあり、問題です。血液型性格判断は心理学で明白に否定されているにもかかわらず、あたかも科学的根拠があるかのように主張される「ニセ科学」です。ただ、間違えてはいけないのは、仮に血液型による性格の違いが科学的に事実と確かめられたとしても、やはりそれを理由に差別してはならないということです。

科学が差別に利用された歴史的事例はたくさんあります。かつては黒人が人種的に劣っていることを証明しようとした研究がありました。血液型の研究も、ドイツでアーリア人の優位性を説くために使われました。これらは「科学の誤用」です。(朝日新聞4月26日朝刊)